

討ち入りの一二月：

阿佐ヶ谷に「マキノ流陣太鼓」が響きわたる！

—吉富英治による牧野信一作品朗読 東京で再開—



牧野信一 阿佐ヶ谷朗読会

朗 読

吉富英治
(薮 英治)

「泉岳寺附近」

作品解説

柳沢孝子

(昭和七年)

二〇二二年一月四日(日)

一四時～ 一七時

各回 定員五〇名 先着順受付

参加費二〇〇〇円

会場 阿佐ヶ谷ワークショップ

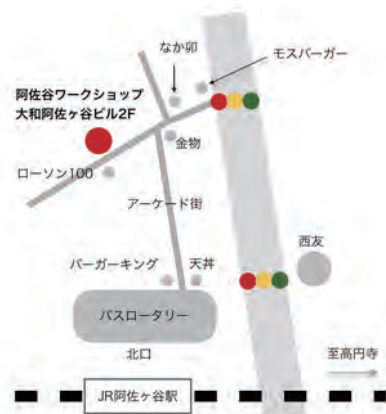
(JR阿佐ヶ谷駅北口 徒歩五分)

TEL 〇三ー五三五六ー七四三八

後援 牧野信一誕生百年記念ホームページ

「続・西部劇通信」

<https://www.connec.co.jp/makinos/>



予約申し込み・問い合わせ

◆グローブ文芸シアター

TEL : 090-1708-4130

Email : globe.bungei@gmail.com

◆「続・西部劇通信」事務局(コネクト株内)

TEL : 042-440-7772

Email : marito@connec.co.jp

短篇の名手の「掛け値なしの傑作」をゆかりの土地で楽しもう！

作家牧野信一（1986-1936）は、宮沢賢治と同年生まれ。今日語られることの少ない作家ですが、昭和初期には「ギリシャマキノ」と呼ばれる「郷里小田原地方とギリシャ神話以来の西洋の物語世界を自由に往還するイメージ豊かな短篇小説群を次々と発表し、文学における芸術派のトップランナーでありました。

「泉岳寺附近」は吉富英治氏が東京・小田原での朗読会でこれまで上演してきた数々の傑作に勝るとも劣らない「最高の隠し玉」といえる作品です。ぜひご拝聴を！

◆朗読者について 吉富 英治（^{しとみ} 英治）

福島県白河市出身。シェイクスピア・シアターでの約10年の活動後、文芸作品の朗読を始める。2004年～「文鳥舎ことのはライブ」にて、小森陽一氏、古井由吉氏、池内紀氏等をゲストに迎え、牧野信一作品を連続朗読。その他の朗読作品：「復活」「幼年時代」（トルストイ）、「キリストの縦ノ木まつりに召された少年」（ドストエフスキー）、「セロ弾きのゴーシュ」、「クリスマス・キャロル」、「中二階のある家」（チェーホフ）、「たんぼぼ」（ヴォルフガング・ボルヒェルト）。その他の活動：「ローマの休日」、「ジョーカー」、「グリーンブック」、「ファーゴ」、「ルパン三世」、「ガンダム」等へ、声の出演。2022年9月「かもめ」（チェーホフ）舞台出演
グローブ文芸シアター主宰。



◆牧野信一と阿佐ヶ谷

牧野は、大正15(1925)年3月に、「東京市外杉並町阿佐ヶ谷754番地」（現杉並区阿佐谷南）に妻せつ子、長男英雄と一家で転居してくる。昭和2(1927)年3月下旬に「小田原町新玉2丁目400番地」に一家で移るまで約2年間をこの地で暮らした。狭いながらも訪問者の絶えない阿佐ヶ谷時代は、牧野が作家として一本立ちを図る苦闘の時期であった。以後小田原と東京とを行き来しつつ作家としての充実期を迎える。

◆牧野信一と泉岳寺附近

牧野は、昭和5年11月、「東京府荏原郡入新井町新宿山王2685」に一時住んだ。「馬込文士村」の住人であった尾崎士郎の勧めという。翌昭和6(1931)年11月、「芝区三田南寺町38番地の借家」に移る。牧野責任編集にあたった文芸誌「文科」（昭和6年10月～7年3月）発刊の時期であり、坂口安吾、中島健蔵など「文科」同人の若き文学者たちと「酒と文学の日々」を送る。「泉岳寺附近」を「新潮」に発表したのは昭和7年10月であった。

◆作品について

「父を売り、買い戻した息子」 小島信夫

：「泉岳寺附近」（昭和七年）は、誰が読んでもさだめし魅力を感じると思う。文体も初期の頃に近い普通の文体である。

この小説は「陣太鼓」という屋号の飲み屋の小セガレにほんろうされる話である。

（中略）

私はこの小説には、後期の牧野の夢と詩の世界とどこか通じるところがあるばかりか、処女作以降のすべての作品とつながりのあることがわかれると思う。この少年こそ、牧野の夢であり、最も好ましい牧野の姿であり、息子の姿であると思う。ぜんたいとして、どこがどうということなく、すべてにわたって魅力にあふれている。

（講談社文芸文庫 「父を売る子・心象風景」解説より）

◆牧野信一連続朗読会の軌跡 （於：三鷹文鳥舎 2004年～2005年）

- 第1回 ※『月あかり』 解説：堀切直人氏
- 第2回 『夜見の巻』 解説：柳沢孝子氏
- 第3回 『心象風景』 解説：柳沢孝子氏
- 第4回 『吊籠と月光と』 解説：柳沢孝子氏
- 第5回 ※『ゼーロン』 解説：小森陽一氏
- 第6回 『鱗雲』 解説：安藤宏氏
- 第7回 『爪・父を売る子』 解説：正津勉氏
- 第8回 『西瓜喰う人』 解説：古井由吉氏
- 第9回 『天狗洞食客記』 解説：武田信明氏
- 第10回 『鬼涙村』 対談：池内 紀氏 / 古井由吉氏
※CDあり（2000円）